

〔用法・用量〕

アスコルビン酸として、通常成人1日50～2,000mgを1～数回に分けて経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

〔使用上の注意〕

1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

胃腸：悪心・嘔吐、下痢等の症状（頻度不明）があらわれることがある。

2. 臨床検査結果に及ぼす影響

- (1) 各種の尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある。
- (2) 各種の尿・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある。

〔取扱い上の注意〕

〔配合変化〕本品は還元性、キレート性が強いので配合変化を起こしやすく、その際本品の効力は低下するので注意を要する。

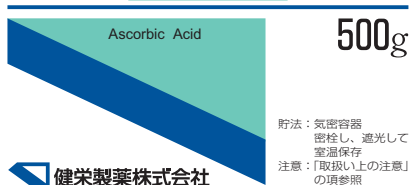
ビタミンC剤

日本薬局方

アスコルビン酸

アスコルビン酸「ケンエー」

ビタミンC原末



貯法：気密容器
密栓し、遮光して
室温保存
注意：「取扱い上の注意」
の項参照



健栄製薬株式会社

大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
電話番号 06(6231)5626

〔組成・性状〕

1g中 日局アスコルビン酸 1g含有。

[L-アスコルビン酸 (C₆H₈O₆) 99.0%以上を含有。]

白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、酸味がある。

〔効能・効果〕

1. ビタミンC欠乏症の予防および治療（壊血病、メルレル・パロー病）
2. ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体労働時など）
3. 下記疾患のうち、ビタミンCの欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合（効果がないのに月余にわたって漫然と使用しないこと）
 - (1) 毛細管出血（鼻出血、歯肉出血、血尿など）
 - (2) 薬物中毒
 - (3) 副腎皮質機能障害
 - (4) 骨折時の骨基質形成・骨癒合促進
 - (5) 肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着
 - (6) 光線過敏性皮膚炎

製造番号

使用期限

承認番号 (59AM)373
薬価収載 1992年6月
販売開始 1994年12月
再評価結果 1977年5月

〈調剤包装単位用コード〉



0111111101111

〈販売包装単位用コード〉



0111111101111



キャップ：PP
中 栓：PE
袋：PE・金属
ボトル：PE
外装フィルム：PP
スプーン袋：PE